

## 式辞（平成23年度）

平成23年度入学式にあたり、お祝いと歓迎の言葉を申し述べます。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。幾多のご努力とご苦労を経て、ついに皆さんは本学に入学されたわけで、その喜びはいかばかりかとご推察申し上げます。また、ご列席のご家族の方々にもお祝いを申し上げます。

しかしながら、今年は、この喜びにも、社会の暗い影がさしていることを意識しないではいられません。先ほど、東日本大震災の犠牲になられた方々のご冥福を祈り、共に黙祷を捧げていただきました。ここにご出席の方々の中にも、ご本人やご家族・御親戚、あるいは近い関係の方でなんらかの被害にあわれたり、あるいは犠牲になられた方がおられるかもしれません。現在の日本は、先の大戦以来の最大の危機的状況にあると言っても過言ではありません。本学では、今年3月に行う予定だった卒業式をその時期には行わず、またこの入学式を2週間延期いたしました。それも、数々の外的状況を考慮したばかりでなく、現在の日本人一般の心のあり方を考慮した結果にほかなりません。

この時期にあたり、大学はいかにあるべきか、学生生活はいかにあるべきか、改めて考えてみないではいられません。

本学では、毎年、緊急避難訓練と防災訓練を個別に実施しています。危機は自然災害だけではなく、人間に起因する危機も数多く、現代はかつてない困難な時代に直面しています。さらに本学では、環境問題に関わる授業を強化するように努めています。自然環境の急激な変化にどう対応するか、自然環境の変化に人間はどう関わっているのか——そのことに無頓着でいられる時代は遠い過去のものとなりました。危機管理教育と環境問題教育とは、根は一つです。これらの方面についての知識と見識を備えた卒業生を世に送り出すことが、現代の大学が社会に対して負っている責任だと、本学は考えています。

大きく揺れている地面の上を歩くときは、足の裏の全体を地面に密着させる心持で、一步一步を確実に踏みしめてゆかなければなりません。人生とか社会とかの歩き方も同じです。この社会は常に大きく揺れています。浮ついた気持ちで歩いていけば、転んでしまいます。確実な歩き方を学ぶ、そしてそのための脚力あるいは精神力を獲得する、ということが、皆さんがこれからの大学生活で、第一にしなければならないことです。きょうやるべきことはなにか、それを考えて、確実にそれを実行する——それ以外に大学生活の、そして社会生活の過ごし方はありません。

大学生活は、真剣勝負です。大学は単位や卒業証書の自動販売機ではありません。どれだけ努力したか、それだけが問われる世界です。しかし、ここで申し上げたいのは、努力というもの、ブーメランのようなものだ、ということです。ブーメランは、ふわっと投げれば、向こうの地面に落ちるだけですが、力を入れて飛ばせば、自分のところに戻ってきてくれます。いい加減な気持ちで大学生活を送っても、得るものはなにもありませんが、全力でこれにあたれば、その成果は必ず自分のところに戻ってきます。その成果を得るために、皆さんは本学に入学されたのであります。断言しますが、努力こそ青春の花です。努力なくして、楽しい青春などありえません。

ハムレットは、「思考は決心の切っ先を鈍らせる」と言っています。なにかをやろうとすると、あれこれ考えているとやれなくなってしまう、ということです。なにかをやろうとすると、それをやるべき理由は、通常、たった一つです。しかし、それをやらないでもいい理由は、無数にあります。やらないでもいい無数の理由を退けて、やるべきたった一つの理由を貫くためにはどうすればいいか——そのための訓練がこれから始まるのだと思ってください。やらなくてもいい理由に引かれていては、ついに何もやらない人生になってしまうでしょう。

最後に、皆さんの本学での学びを可能にくださったご家族の方々に感謝申し上げ、皆さんの学生生活の豊かならんとことを祈念して、式辞とさせていただきます。

平成23年4月16日

学長 入江和生